

令和7年度 第4回 第6期香美市まちづくり委員会

日時：令和8年1月13日（火） 18時30分～20時30分

場所：香美市役所3階会議室

出席者：まちづくり委員9名 事務局(企画財政課)3名

欠席者：7名

1. 議事内容

議題1 香美市振興計画について

資料：第4回まちづくり委員会資料

①将来都市像について

【決定案】

こじちゃんと暮らしやすいまち 香美市

【検討事項】

ローマ字表記等、表現の仕方について案を考える

【意見交換】

・「つながり、集まり、支えあう暮らしやすいまち 香美市」

多様な困りごとを地域のつながりの中で解決していく。

・「高知県で一番暮らしやすいまち 香美市」

移住者に目につくフレーズと考え、住んでいる人にも移住者にも暮らしやすいまちとする。

・「地域の絆とゆるやかなつながり 暮らしやすいまち 香美市」

香美市は「いざなぎ流」の舞や「御神楽」など、伝統的な祈りの文化が残っており、地域の絆が非常に強い場所である。一方で、アンパンマンミュージアム、べふ峡、龍河洞など、県内外の人が訪れて楽しむ「緩やかな交流」も共存している。土佐山田の都市機能、香北の自然、物部の山奥暮らしと、移住先としても多様な選択肢が選べる。

香美市の打刃物は「TOSA UCHIHAMONO」として世界に知られている。高知工科大学は世界ランキングにもランクインしており、在留資格を持つ外国人が県内でも多いことから、世界まで広がる「緩やかな繋がり」を持っている。

・「人に優しい、触れ合いが多い暮らしやすいまち 香美市」

子供から高齢者までが暮らしやすいことは、健康や福祉にも直結する。

自然や人との繋がり、交流を重視することが、産業、観光、教育、防災といった全ての分野の充実に繋がっていく。

・「高知県で一番」と言うと語呂があまり良くないので、「高知で一番暮らしやすい」とする方が語呂が良いのではないか。

- ・「幸せに暮らせるまち」や、あるいは「超・暮らしやすい」といった、ネーミングで攻めるような、少し変わった表現もありではないか。
- 「こじちゃんと暮らしやすいまち 香美市」はどうか。
- ・「本当にすごく暮らしやすいんですよ」ということを強調するために、「こじちゃんと暮らしやすいまち」という表現はキャッチャーで、香美市らしさも出る。
- ・外部（県外など）から見た時、「こじちゃんと」と言われてもピンとこないかもしれないが、「まっここと」や「こじちゃんと」という響きは、高知や香美市の営みをイメージさせる。
- ・「こじちゃんと暮らしやすい」をローマ字表記にしたり、見た目の雰囲気も工夫していきたい。

②指標について

【意見交換】

- ・現実問題として、香美市でも学校の統合や閉鎖の可能性がある。そうなると「通学しやすい場所に学校がある」という指標は、現実と乖離してしまう。学校の場所という物理的な距離よりも、スクールバスなどのサポート体制を含めた「教育の環境や質」として捉えるべき。ネットや通信教育も増えている中、物理的な場所（通学しやすさ）よりも「環境が整っている」という指標の方が、将来的にあり得る姿ではないか。
- ・指標の中に「繋がり」に関するものも一つくらい入れてはどうか。教育と文化がセットになっているが、文化に関する指標が一つもないのが気になる。
「地域の繋がり」や「祭りに参加した」といった項目があれば、香美市らしさがより測れるのではないか。
→「私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである」を追加することを検討
- ・移住促進の観点から、「適度な費用で住居を確保できるか」という指標も入れておきたい。
山田（市街地）は少し高いかもしれないが、奥に行けば安く暮らせる。公共交通機関よりも、今は自家用車やライドシェアのような「移動のしやすさ」の実感が重要である。
→「私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる」を削除し、「私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる」を追加することを検討

③基本理念について

【決定案】

人と自然に寄り添いながら、快適性と利便性を追求するまちづくり

【意見交換】

- ・「人と人との繋がりを大切にする」という言葉を基本理念の一つに入れたい。伝統芸能の継承もそうだが、繋がりがあるからこそ物事が続いていく。
- ・基本理念は、将来都市像に向かっていくための「目標」や「考え方のベース」となる。例えば「むやみやたらに開発はしない」といった方針も、この「繋がり」という理念を自然との繋がりと考えれば、「その施策は理念に反していないか?」と振り返る指標になる。
- ・「自然を大切にする」という観点も入れておきたい。むやみに環境を破壊するのではなく、香美市の良さである自然を守りながらまちを作っていく姿勢が必要。消防の理念に「生命・身体・財産を守る」とあるように、市民の暮らしの安全や環境を守ることも基本理念の重要な要素。
- ・以前の案にあった「愛と勇気と物語のまち」を言い換えて、「寄り添いながら、輝く明日を創る まちづくり」というのはどうか。「寄り添う」は繋がり・愛を意味し、「輝く明日」は勇気や希望、「創る」は物語を紡いでいくイメージ。
- ・産業や観光の面から言えば、やはり「潤う（儲ける）」という観点も必要。「潤う」という言葉が強ければ、別の柔らかい表現にしても良いが、地域経済が活性化することも理念に含まれるべき。既存の「輝き・安らぎ・賑わい」という言葉も、普遍的なものとして悪くない。
- ・快適性と利便性の両立を追求したい。香美市の地価が上がっているのは、住宅地としての価値（利便性や環境）が認められている証拠。行政には、利便性を高める施策（IT 活用や交通整備）と、快適性を守る施策（自然保護や安心安全）をバランスよく進めてほしい。
- ・議会などで説明する際にも、あまり「もやっとした」表現よりは、会長が言うような「快適性」「利便性」といった少し固めの言葉が入っている方が、施策の根拠として説明しやすい。例えば「学校にエアコンをつけるのは快適性のため」「バスを増便するには利便性のため」と明確に言える。そこに「人と自然に寄り添う」という一言が加わることで、自然を壊さないといったことも考慮できる。
- ・「人と自然に寄り添いながら、快適性と利便性を追求するまちづくり」という表現なら、ハード（インフラ）とソフト（繋がり）の両方をカバーできる。